

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531143

研究課題名(和文)他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科のペーパーテスト開発

研究課題名(英文) Developing Written Tests of Social Studies for Junior High School as Performance Assessment for Thinking through Relationship Building with Others

研究代表者

豊島 啓司 (TOYOSHIMA, Keiji)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：90380378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、社会科での、他者との関係構築的な認識形成の評価方略の解明である。その際、関係構築のための「学習者中心のデザイン」援用の有効性を実証的に明らかにした。成果の1点目は、社会科評価の問題点として、他者性の欠如、価値判断の評価の不備、解答しつつ「新たに学ぶ」ことの欠如を指摘した。2点目は、社会科の「かかわりの知」と学習科学での「学習者中心のデザイン」による評価基盤「足場かけ方略」11策を明らかにした。3点目は、開発した評価問題を中学校社会科で試行し効果を検証し、これらの有効性を実証的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify a strategy of performance assessment for thinking through relationship building with others, as assessment for argumentation by “scaffolding” in social studies. “Scaffolding” is important to promote thinking through relationship building in assessment for argumentation of social studies. And therefore, empirically, this study clarify that use of LCD is so effective, through the practice of lesson and assessment. The results indicate the validity of this method with regard to 1) lack of otherness, inadequacy of value judgment proceedings, and lack of “scaffolding” to learn through answer; 2) To overcome these problems, 11 strategies based on citizenship framework and LCD framework, 3) the results indicate the validity of this method with regard to the practice of lesson and assessment in social studies for junior high school students.

研究分野：社会科教育

キーワード：社会科 ペーパーテスト 関係構築 市民的資質 パフォーマンス評価 中学校

## 1. 研究開始当初の背景

「なぜ、『他者との関係構築的な認識形成』について、社会科固有のペーパーテスト開発か。」それは、社会科の究極目標「社会の形成者としての市民的資質」の育成が、評価する手続きにおいて未だ要領を得ないため、社会科の現場は「用語の暗記」に堕してしまい、正鵠を射ることを断念しているからである。殊に大きく的外した中等社会科における授業実践の常態化から、我が国における中学生の市民的資質育成が著しく疎外され続けている状況を打開する一手立てとして、「他者との関係構築的な認識形成」を目指す社会科固有のペーパーテスト開発は喫緊の課題である。同時に本研究は、今般の教育課程改訂の根拠である、PISA 型読解力等、国際標準の学力(アーギュメンテーション)向上に社会科としてアプローチすることに他ならない。2003、2006、2009 年実施の PISA (15 歳:ペーパーテスト方式)には、社会科の目標と齟齬があるものの、社会事象の特定場面を切り取り、アーギュメンテーション評価が意図された事例が頻繁に散見される。

学問的に社会科は「社会認識形成を通じた市民的資質の育成」と一般化される。極言すれば、社会科は「平和で民主的な国家・社会の形成者」としてのよりよき市民(good citizenship)、つまり「市民的資質」を育成するためにある。翻って、「社会科における市民的資質の評価は如何か」。残念ながら、社会科における市民的資質評価の研究は未だ十分とは言えない。むしろ、社会科学の解が内包する多義性・多様性、市民的資質が伴う規範性などを背景に、「唯一解に収斂しない」、「態度評価からは引き下がるべき」とする科学教育の立場から市民的資質評価の研究は敬遠されてきた。近年、我が国の社会科教育研究は、市民的資質の直接的な育成が奔流となり、「意思決定」「合意形成」「社会形成」等、価値判断を伴う「他者との関係構築的な認識形成」を目標原理とする市民社会科がさかんに主張される。しかし、これら市民社会科への警鐘として、評価研究者から「提唱された社会科において、学習成果として実際に評価可能になったもののみが、その社会科教育において実際に形成される学力となる」のであり「意図・願望でなく、事実としてその社会科でどのような資質形成がなされたかを明らかにするのが評価研究である」、また、「第 15 回社会系教科教育学会」シンポジウム基調での「評価できないものを学力と称することは裸の王様に等しい。(中略)公民(市民)的資質については納得しうるデータがない」(於:兵庫教育大学,2004)等、研究の遅れに対する深刻な問題が指摘される現状にある。

「市民的資質は如何に評価可能か」。平成 20 年版学習指導要領ではさらに、他者との関係を重視する「構成主義」学力観が基盤となり、中学校社会科公民的分野における「対立と合意、効率と公正」や高等学校現代社会に

おける「幸福・正義・公正」など、より市民的資質育成の重視が鮮明となった。とりわけ学び手の他者との関係構築的な事実認識や価値判断としての市民的資質を如何に評価するかは既に学校現場に突き付けられた現実課題であり、それに応えうる十分な解を持ち合わせていない学術研究においても避けて通ることのできない喫緊の課題である。

今日、前述した市民社会科の現状は、総じて、「～すべきか」価値判断を援用する論理枠組としてツールミン図式の作成を方法に論理を精緻化させ、学習者に形成された価値認識の妥当性や正当性を可視化し、同時に同図式が評価資源とされる。とはいえ、議論や交渉など対話による社会的な判断を要する「合意形成」「社会形成」では、関係構築的な認識形成の点から、評価根拠の説得力を欠くと言わざるを得ない。

## 2. 研究の目的

本研究は、社会科の究極目標である「社会の形成者としての市民的資質」の育成に照らし、PISA 型読解力やキー・コンピテンシー(OECD)でも指摘される「他者との関係構築的な認識形成」(いわゆる「アーギュメンテーション」:理由付けの主張/それら主張のやりとり)について、社会科固有の枠組をもとにペーパーテスト開発として、その評価方法を明らかにすることを目的とする。

具体的には、学問的な認識論や社会構築論等をもとに社会科評価の観点や規準等を析出し、中学校社会科において、議論や交渉など他者との対話的な相互作用を前提とする社会のわかり(「かかわりの知」)を測定する評価問題としてペーパーテスト事例に具体化、類型化して開発し、それら有効性の検証を通して提案することをねらう。

## 3. 研究の方法

(1) 中学校社会科の各種学力調査、入学試験、定期考査等、ペーパーテスト事例を収集し、特に「社会科の方法原理(依拠する認識論や社会構築論等)」及び「他者との関係構築的な認識形成(の有無)」の観点から、市民的資質の指導と評価の実態を分析し、具体的な課題を明確化する。これらをもとに、「社会の形成者としての市民的資質」を評価するペーパーテスト作成の基盤となる、社会科固有の評価枠組みを明らかにする。

(2) 析出された社会科固有の評価枠組みをもとに、定期考査、入学試験、学力調査等での実用を想定して、具体化された問題事例を開発する。

(3) 開発した問題事例について、授業・評価を實踐して得られたデータをもとに、通過率、正答・誤答例等の分析から、開発した問題事例の妥当性及び信頼性を検証して広く提案する。

## 4. 研究成果

本研究の総括的な成果は以下の3点である。1点目は、アーギュメンテーションの視点から社会科評価の現状は、他者性の欠如、価値関係的・規範的判断の評価手続きの不備、解答しつつ「新たに学ぶ」足場かけの欠如の問題点を指摘した。2点目は、これらの問題点を克服するため、市民的資質を育成する社会科枠組み「かかわりの知」と学習科学での「学習者中心のデザイン」(LCD)を統合し、評価問題作成の基盤となる、社会科固有の「足場かけ方略」11策を明らかにした。3点目は「足場かけ方略」により開発した評価問題事例を中学校社会科で試行し効果を検証した。その結果、我々が提案する「足場かけ方略」は、生徒が解答しつつ「新たに学ぶ」段階的な思考方略として、社会科のアーギュメンテーション評価において有効であることを実証的に明らかにした。

また、本研究の方向性としての成果について、以下の2点を見込んでいる。1点目は、「用語暗記」の目的化から、社会科の本質「市民的資質」育成へ授業改善される。一般に中学校での社会科授業では、入学試験の問題傾向(個別的知識の暗記)に対応する「指導と評価の一体化」が見られる。方法的には本末転倒であるが、本研究の成果が、広く中学校社会科の教科書、参考書、問題集等の学習材、さらには諸学力調査、入学試験等に浸透すれば、これに対応すべく、社会科授業の様態が、暗記を前提とした知識注入から、議論、交渉など対話による関係構築的な認識形成へ、つまり社会科の本質「社会の形成者としての市民的資質」の育成に向かって改善されることが予想される。2点目は、中等社会科において、PISAや新教育課程が指摘する学力が評価可能となる。PISA調査での読解力は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」と定義される(OECD,2009)。また、OECDの学力指標、キー・コンピテンシーは、個人と社会との相互関係、自己と他者との相互関係、個人の自律性と主体性、3つのカテゴリーからなる。両調査、指標とも「社会参加/形成」、「相互関係」など他者との「関係構築的な認識形成」が重要な学力要素として定義付けられている。これらを改訂根拠の1つとして、新教育課程では、「基礎的・基本的な知識・技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を育成することが基盤とされる。特に社会科では、「思考力・判断力・表現力」は新生徒指導要録における評価の第二観点として、(旧「技能・表現」から変更して)位置付けられ、そのため「言語活動の充実」が図られること、「社会の形成に参画する学習」を重視することが必要と指摘されている。これらの背景には、「表現力」が

技能ツールから思考ツールとして役割を転じ、「考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる」、つまり、「他者との関係構築的な認識形成」として、議論や交渉など他者との対話的な相互作用を前提とする社会のわかりが目指されていると言えよう。本研究は中等社会科において、PISAや新教育課程が指摘する学力を評価可能にするものである。

さらに、本研究に携わる研究推進体制(代表者・協力者)における具体的な成果として、以下の3点を考える。まず1点目は、理念・理論の提案にとどまらない、具体的、実践的な社会科評価研究を“試行実践レベル”で推進できていることがあげられる。このことと関連し2点目として、研究代表者(豊島)とともに、中学校で実際に社会科の指導に携わる教員(本学三附属中学校教員及び柴田ら)及び社会科教育研究に携わる大学院生(平田・野田ら)・大学生ら研究協力者による実践研究チームにより、中学校社会科パフォーマンス評価問題作成プロジェクトとして、問題作成の方略を発表者以外の研究協力者とともに共有し、問題事例の開発・蓄積を広範囲に推進できていることである。加えて3点目は、実際に開発したペーパーテストを実施、分析した事例から、「関係構築的な認識形成」への“逆向き設計”として授業改善を志向する教師の意識変化が現れていることである。

翻って、今後の課題として、以下の3点を捉えている。1つ目の課題は、開発した問題事例の質(妥当性・信頼性、ループリックやアンカーを含む)についての(子どもの解答に基づいた)分析的検討・改善が必要である。2つ目の課題は、中学校社会科の各分野内容にかかわって、より多くの問題事例を開発する必要がある。3つ目の課題は、各フレームワークにおける問題作成アイコンの追加・修正など検討を深め、県内外の中学校現場への問題作成方略・アイコンの提供、敷衍による社会科授業改善の推進を最終的な目標として具現する方途を明らかにする必要がある。

なお、ここまでの本研究報告の詳細については、平成24～26年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究課題名:「他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科のペーパーテスト開発」課題番号:24531143による共同研究の成果報告(紙媒体)を参照されたい。

また、開発した評価問題事例についての実践及び分析結果の詳細については別の機会(全国社会科教育学会『社会科研究』第85号、2016年発行予定に掲載決定)にゆずる。

#### 引用文献

- 内海巖編著、社会認識教育の理論と実践、1971、葵書房、7  
伊東亮三、市民的資質とは何か、社会科における市民的資質の形成、1984、東洋

館出版, 17-23

小原友行, 社会科における意思決定, 社会科教育ハンドブック, 1994, 明治図書, 167-176

吉村功太郎, 合意形成能力の育成をめざす社会科授業, 社会科研究, 45号, 1996, 41-50

水山光春, 合意形成をめざす中学校社会科授業, 社会科研究, 第47号, 1997, 51-60

池野範男, 批判主義の社会科, 社会科教育, 50号, 1999, 61-70

棚橋健治, アメリカ社会科学習評価研究の史的展開, 風間書房, 2002, 2-5

Toulmin, S. E., *The Uses of Argument Updated Edition.*, 2003, Cambridge: Cambridge University Press.

尾原康光, 社会科授業における価値判断指導について, 社会科研究, 39号, 1991, 70-83

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

豊嶋啓司, 柴田康弘, 概念活用の思考評価, 社会科研究, 査読有, 85号, 2016 発行予定に掲載決定

豊嶋啓司, 社会科の市民的資質評価, 福岡教育大学紀要, 査読無, 64号の2, 2015, 67-80

豊嶋啓司, パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテスト開発, 福岡教育大学紀要, 査読無, 63号の2, 2014, 59-74

〔学会発表〕(計7件)

豊嶋啓司, 柴田康弘, 野田惟仁, 他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科のペーパーテスト開発(3), 社会系教科教育学会, 第26回研究発表大会, 兵庫教育大学(兵庫県, 加東市), 2015

豊嶋啓司, 柴田康弘, パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテストの開発(2), 教育目標・評価学会, 第25回研究大会, 群馬大学(群馬県, 前橋市), 2014

豊嶋啓司, 柴田康弘, 野田惟仁, 田中聡之, 中島祥慈, パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテスト開発(2), 全国社会科教育学会, 第63回全国研究大会, 愛媛大学(愛媛県, 松山市), 2014

豊嶋啓司, 柴田康弘, 平田大夢, 野田惟仁, 他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科のペーパーテスト開発(2), 社会系教科教育学会, 第25回研究発表大会, 大阪教育大学(大阪府, 柏原市), 2014

豊嶋啓司, パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテスト開発, 教育

目標・評価学会, 第24回研究大会, 滋賀大学(滋賀県, 彦根市), 2013

豊嶋啓司, 柴田康弘, 平田大夢, 野田惟仁, パフォーマンス評価による中学校社会科のペーパーテスト開発, 全国社会科教育学会, 第62回全国研究大会, 山口大学(山口県, 山口市), 2013

豊嶋啓司, 柴田康弘, 他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科のペーパーテスト開発に向けて, 社会系教科教育学会, 第24回研究発表大会, 兵庫教育大学(兵庫県, 加東市), 2013

〔図書〕(計1件)

豊嶋啓司 他, 明治図書出版, 新社会科授業づくりハンドブック, ワークシートを活用した授業づくり, 2015, 発行予定

〔その他〕

平成24~26年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))課題番号24531143 研究成果報告書, 2015(紙媒体)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

豊嶋 啓司 (TOYOSHIMA, Keiji)  
福岡教育大学・教育学部・教授  
研究者番号: 90380378

(2)研究協力者

柴田 康弘 (SHIBATA, Yasuhiro)  
福岡県飯塚市立小中一貫校頼田校・教諭

土器 修 (DOKI, Osamu)  
福岡教育大学附属福岡中学校・教諭

東方 広海 (TOUBO, Hiromi)  
福岡教育大学附属福岡中学校・教諭

山下 高志 (YAMASHITA, Takashi)  
福岡教育大学附属小倉中学校・教頭

松村 央子 (MATSUMURA, Hiroko)  
福岡教育大学附属小倉中学校・教諭

大向 智樹 (OMUKAI, Tomoki)  
福岡教育大学附属久留米中学校・教諭

金子 尋紀 (KANEKO, Hiroki)  
福岡教育大学附属久留米中学校・教諭

早田 恵美 (SOUDA, Emi)  
福岡教育大学附属久留米中学校・教諭

中島 祥慈 (NAKAJIMA, Shoji)  
佐賀県佐賀市立川副中学校・教諭

田中 聡之 (TANAKA, Satoshi)  
福岡県小郡市立小郡中学校・教諭

平田 大夢 (HIRATA, Hiromu) 大学院生  
野田 惟仁 (NODA, Koremi) 大学院生  
百本 琢真 (HYAKUMOTO, Takuma) 学生